

かわら版

第269号



Quality of Life

日本予防医学協会

2022.4発行

インフォデミックって、どげなこと？



うわっ、カタカナ！と拒否反応が起きそうです
が、新しい言葉が次々と生み出されますね。
インフォデミックは二〇二〇年に衆議院の国会答弁
でも狙上(そじょう)にあがっています。

そこで今月は

『インフォデミック』に

関するお話です。



★世界保健機関(WHO)も使っています★

インフォデミックはインフォメーション(情報)と
パンデミック(感染症の世界的流行)を合わせた造語
です。

新型コロナウイルス(Covid-19)

の世界的流行と同時に、真偽が定かでない様々な情報
もSNSを通じて世界中に拡散されました。

エンタメとしては面白い都市伝説や陰謀論のようなも
のから、医師や研究者が語る最新情報まで、日々情報
の洪水に押し流されつつあるのがわたしたちの現状で
すね。

インフォデミックを引き起こす元となる情報は、悪意
あるデマから情報の誤った解釈までグラデーション
(濃淡)があり、一見すると判断に迷うことが多々あ
ります。

★たとえば・・・★

最近の例を一つお示します。



「二〇二二年はインフルエンザが大流行」
という見出しのニュースが昨秋躍ったように
記憶しています。これは二〇二一年九月に日本感染症
学会が「二〇二一〜二〇二二年シーズンにおけるイン
フルエンザワクチン接種に関する考え方」で「インフ
ルエンザワクチンの積極的な接種を推奨」した提言に
由来します。
https://www.kansensho.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=44

その提言の中に「英国政府は、今年のインフルエンザ
は早期に流行が始まり、昨年流行がなかったために例
年の一・五倍の大きさの流行になる可能性があるとし
て、インフルエンザワクチン接種を呼び掛けていま
す」とあります。昨秋のニュースはおそらくここを切
り取って「二〇二二年はインフルエンザが大流行」と
いう見出しになったのだらうと思います。

そして今、

二〇二一〜二〇二二年シーズンも前年と同様、現時点
では流行していませんので「日本感染症学会がまちが
った」と、はやガテンした人もいるでしょう(わたし
もその一人です)。

しかしこの提言は、流行の可能性に言及し、新型コロ
ナウイルス感染拡大時に医療現場の負担を減らすため
にもワクチンで予防できる疾患には積極的な接種を、
と述べています。

「二〇二二年はインフルエンザが大流行しますよ」と
喧伝しているわけではありません。

毎日大量にあふれるニュースのヘッドラインだけを見
ていると、勘違いや誤読も増えてしまいますね。

★インフォデミックの大海原を泳ぐには★

ではわたしたちは何をどうすればいいのでしょうか。

学生時代の初心に戻って、基本的なことを
認識し直すことではないでしょうか。

- ・ 事実と推測を分けて考える
- ・ 引用や参考など二次情報ではなく
一次情報(原本)を確認する
- ・ 不確かなことは発信しない

また、権威ある新聞やネットニュースでも誤った解釈
がありうることを構えることではないでしょうか。科学
的な知見とかエビデンスと言われても鵜呑みにできま
せん。そもそも科学は日進月歩ですから、今日の常識は明日の非常識かもし
れません。

かと言って、何もかも疑っているのは
予防活動もままなりません。

何か疑問を持ったら、厚生労働省や
世界保健機関(WHO)はどのような
見解かこまめに調べることでないで
しょうか。

withコロナとともに、withイ
ンフォデミックで、落ち着いた生活を
心がけたいものです。【Hm】

毎月タイムリーでホットな情報を無料の
メールマガジンにて発信しています。

健康づくりかわら版

検索

